

NGP低クレーム率全国1位、CRS埼玉（埼玉県川越市）

部品品質で高評価獲得



リサイクル部品の在庫

利益確保へ登録車の廃車入庫を誘導
同社は2004年に、埼玉県のリサイクル事業者・青木商店（51%）と総合商社・双日（49%）の共同出資により、自動車解体事業者として資本金3億9千万円で設立された。05年1月施行の「自動車リサイクル法」に伴うリサ

素材成分分析や樹脂販売が鍵

イクル市場の拡大に備えるために、双日が自動車リサイクルは青木商店の完全子会社となる市場調査を経て目指したリサイクル工場全国展開の「第一弾」で立ち上がった。

2年後の07年にCRS埼玉は青木商店の完全子会社となる市場調査を経て目指したリサイクル工場全国展開の「第一弾」で立ち上がった。設立当初、事業の中心が解体だったことから、廃車処理台数は年間2万台と全国でも有数規模の解体業者といえる。解体の設備はコベルコ建機製のニトラ2機、ペーリン製のプレス機1台などを備えた。また、処理台数の構成比率は登録車6割、軽自動車4割となっている。以前は軽保で、従業員間の情報共有が有の高まりなどに伴って軽の廃車入庫比率が高まったが、最近では利益確保の観点から

「登録車の廃車入庫誘導に注力している」（加藤社長との方針だ。部品の生産・販売は設立時から取り組んでいたが、積極的が大幅に変わったという。部品の生産・販売は設立時から取り組んでいたが、積極



加藤社長(左)と峯田隆広執行役員



再利用される樹脂



磁石分析装置

的な販売促進はシステム導入と同時期だった。ただ、品質面ではまだ十分ではなかったため、加藤団体のNGPの品質基準に基づいた部品生産にも注力。NGP担当者を工場に招いて部品生産に関する説明や指導を受けた。この2年に及ぶ取り組みが奏功して、昨年10月にはNGP加盟事業者として「低クレーム率全国1位」の表彰を受けるなど、部品事業も軌道に乗り始めた。今後、車両の素材変化や電気自動車（EV）などの電動車両の普及はリサイクル業界にも影響を与える可能性が高い。このため、同社は素材の成分分析や素材の再利用にも取り組む。その一つがハイブリッド車のモーターに使う磁石に含有するレアアースの成分分析で、13年秋に「磁石分析装置」を導入した。このほか、樹脂の破砕やガスフィルターの触媒にも使われている。加藤社長は「再利用の技術力は高まっているが、将来、再生素材を用いた車両の量産化に対応できるかが課題」と話す。

北から南から
リサイクル

情報共有、車の素材変化 捉え研究・対策で先手



本社工場

「登録車の廃車入庫誘導に注力している」（加藤社長との方針だ。部品の生産・販売は設立時から取り組んでいたが、積極

自動車解体やリサイクル部品の販売を手がけるCRS埼玉（加藤一臣社長、埼玉県川越市）は、昨年10月にNGP日本自動車リサイクル事業協同組合から加盟事業者として「低クレーム率全国1位」の表彰を受けるなど、部品の品質面で高評価を受けている。また、素材の成分分析をはじめ樹脂の破砕や販売などにも取り組む、車両の素材変化や電動車両の普及など、リサイクル業界を取り巻く市場環境の変貌に対応する。（松尾 隆広）